

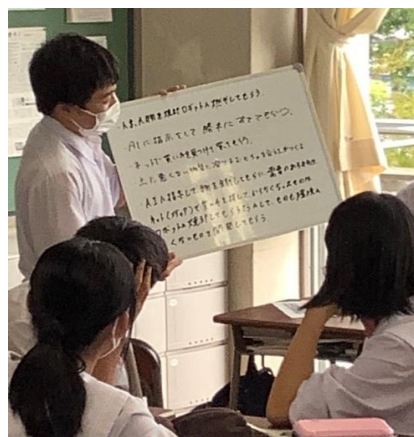
## 「オールSABAE」始動 ～総合的な探究の時間～

### SDGs をカードゲームで知る (2年生)

6月10日、2年生の総合的な探究活動のテーマは「SDGs」。  
2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が  
2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標で  
す。日本でも「アクションプラン」が策定され、2018年には  
鯖江市が31未来都市の一つとして取組みを進めています。

最初「SDGsを知っていますか?」と聞かれて、勢いよく答  
える生徒はいませんでした。その後、SDGsの意義や活動の動  
画を見て概要をつかんで、実際にグループで課題解決へのアイ  
ディアを出し合ってみる活動に入りました。

トレードオフカードとリソースカードの二種類のカードに  
より構成された金沢工業大学が開発したカードでゲームをし  
ました。トレードオフカードはSDGsの17個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、リソ



グループで考えた課題解決アクションを  
全体に紹介する生徒



ソースカードには問題解決のために活用可能なAIやロボットなど  
の技術や製品、サービス等のリソースが描かれています。

まず、グループでトレードオフカードを1枚引きます。トレ  
ードオフとは、何かを得ることで別の何か失われる状況のこ  
とで、SDGsにおいては、特定の社会課題を解決することで新たな  
社会課題が生まれてしまう状況を指します。あるグループは、  
“3 すべての人に健康と福祉を”を実現しようとして「友達  
に煙草をやめさせようとしたら、友達に嫌われてしまいそうに  
なった」カードを引きました。

次に「リソースカード」を一人1枚引き、そのカードにある技術やサービスを課題解決にどう生かせるか知  
恵を絞ります。グループで意見を統合し  
て、課題解決のアイデアを発表しまし  
た。解決したい問題に、どう自分のカード  
にあるサービスと結びつけるか一生懸命  
考える姿や、互いのカードを見せ合っ  
て、ほかの使い方はないかと相談し合う姿な  
どが見られました。発表では、意外な発想  
のアイデアもあり、SDGsで大切なのは、  
問題に対してどうアクションを起こして  
いくかであり、解決の糸口は一つではない  
ことを体感できたようでした。



#### 【生徒の感想から】

- SDGsという言葉は聞いたことがあったが、内容を知ることができた。日本は4しか達成していないと聞いて驚いた。いろいろな視点から解決方法を見つけるのはおもしろいと思った。
- 自分一人では思い浮かばないことも、みんなで協力したらおもしろい案もたくさん出てきた。
- みんなが引いたリソースカードを「私ならこうするかな」などと考えることができた。

## クッキング部がテレビに生出演しました

### 吉川ナスのアレンジレシピ紹介

本校のクッキング部が、地元テレビ局のFBCから、夕方の生番組への出演依頼を受け、6月26日(金)の「おじゃまっテレ」に生出演しました。



クッキング部では、これまでに地元の農産物などを使ったレシピを考えてきてお

り、昨年度は地元の特産品である「吉川ナス」を使った新しいレシピを開発しました。ただ料理のレシピを作るだけではなく、地元農家の方々にもご協力いただき、実際に収穫して吉川ナスの特徴をよく知ったうえで、レシピ開発に取り組んできました。出来上がったレシピをもとに、

地元でビストロ「シトラス」を経営される青柳彰彦さんにも料理指導をしていただき、パスタ、キーマカレー、ドリアの3種類のレシピを完成させました。

今回はFBCが生放送でこれまでの活動を県民に広く知らせたいということで本校にオファーがあり、クッキング部の活動風景が取り上げられました。

生放送ということで、事前の打ち合わせでは時間をかけて話し合い、練習やリハーサルにも熱が入りました。生徒たちだけではなく、顧問や周囲の教員もかなり緊張した状態の中、生放送が始まりました。

いざ生放送が始まると、生徒たちは楽しそうに活動をしており、とても明るい雰囲気の中で料理をし、取材に答えていました。完成した料理はレポーターの方を含め、本校の校長、ALT、運動部員に試食してもらい、とても好評を得ました。そして無事、生放送が終了し、みんな笑顔で取材を終えることができました。

放送終了後には、番組スタッフも含めてクッキング部員全員で試食をしました。とてもおいしかったようで、おかわりして食べてくださる番組スタッフの方もおられました。

テレビの生放送に初めて出演し、これまでにはない多くのことが経験でき、生徒たちはまたひとまわり成長できたようです。



右上「とろ〜りチーズと吉川ナスのキーマカレー」

左下「ごろごろ吉川ナスのチーズパスタ」

右下「ほっぺたが落ちる！？とろうまチキンドリア」

## 教員研修会が行われました

### テーマ「鯖江について」

令和2年7月20日(月), NPO法人エル・コミュニティ代表  
竹部美樹氏をお招きし, 教員研修講義が行われました。



「めがねのまちさばえ」統一ロゴを  
行政からも民間からも発信し, 鯖江  
の知名度が上がっている中,



★国内生産シェア9割を占める「眼鏡産業」

★繊維王国福井の中核を担ってきた「繊維産業」

★1,500年余りの歴史を有し国内の業務用漆器の8割を占める「漆器産業」

この三大地場産業に次ぐ第四の産業として「IT産業」を掲げた鯖江の近年の取組みについて講義していただきました。

### 世界に展開されるものづくりのまち鯖江と 世界の見本になるまちづくり

市民主役条例のもと, 行政の仕事を市民・民間が主体となって行っていること。行政がもっているデータをオープンにして, 民間がアプリをつくるオープンデータ先進地として注目されていること。「市長をやりませんか?」コンテストの開催で, 全国の学生が提案したプランを行政や民間が積極的に実現させ, 全国に同様の企画が広がっていること。全国に先駆けて, プログラミング教育を学校に導入すると同時に, 地産地消モデルとなっている講師育成にも力を入れていることなど, 色々な鯖江の取組みを一つずつ確認することができました。

さまざまな企業が鯖江にサテライトオフィスを開設する中, 民間団体が空き家利用に立ち向かっていることから, 今の時代は場所に関係なく活躍ができるが, 視野を広げることで更に活躍の場が広がることなど, 教育の現場に直結する内容も盛りだくさんでした。

### 鯖江モデルは世界へ

経済誌 Forbes JAPAN ランキング 日本を面白くする

「イノベーションシティ」ベスト10では, 全国1,700以上の自治体の中で鯖江市は第四位!! 2015年に出版された「福井モデル」は韓国版が出版され, 韓国からも鯖江に多く視察が訪れていることなど, 鯖江市は今や, 全国のみならず世界から注目されていることに誇りを感じる講義となりました。



講義の最後には色々な感想が飛び交いました。

- ◆ 伝統を守りながら時代とともに新しいことに挑戦し続けているこの鯖江市が, 自然環境をどれだけ美しく残すかという視点も大切に, 生き残れるまちであって欲しい。
- ◆ プログラミングを学び, 世界的視野のもてる子の育成は素晴らしい。
- ◆ 生徒と一緒に答えを探しに行く, 生徒と挑戦していくことが大切だと思った。
- ◆ 講師の姿勢を見習い, 生徒と多くの時間を共有し, 生徒の目線になり, 寄り添い認めることで信頼関係が生まれると感じた。



## 鯖江の断層を歩こう！

### 2020☀夏の特別授業

令和2年7月31日(金)、株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役 田中謙次氏に、昨年到现在夏特別授業を実施していただきました。

今年は鯖江の断層と一緒に歩いていただき、「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマにした体験学習授業でした。

鯖江の鳥羽あたりから長泉寺山を通過して越前市との境界付近まで続く鯖江断層は、江戸末期の頃から鯖江の交通や文化の発展ととても関係が深いとされています。そして湧水が直線的に配列して



「浅水」「水落」「長泉寺」「清水」「舟津」などの水に関係する地名が並んでいます。河岸段丘と活断層の地形と旧道境界の発展を理解するために、湧水ポイントを発見したり屋敷や言い伝えを探したりしました。

学校近くにある舟津神社では、古来湧水があったとされています。断層崖が背景にそびえてとても雰囲気の良い神社です。

断層沿いに数ヶ所湧水地点があり、pH、電気伝導度、そして水温を測りながら進みました。前日までの大雨が影響したためか、段丘からの湧水と断層面を伝う湧水ではあまり大きな差はありませんでした。今後時期をずらすなど、何度か計測をすることで何か変化をとらえることができるかもしれないと田中先生より助言いただきました。



現在は泉源の多くは枯渇し失われてしまっているけれど、残ったものについては断層と関連して、またこの地域の歴史的遺産としても是非とも残していく必要があると学びました。

## 生徒国際イノベーションフォーラム 2020@online に参加

### School for 2030

#### ～いっしょに創るラミライの学び～

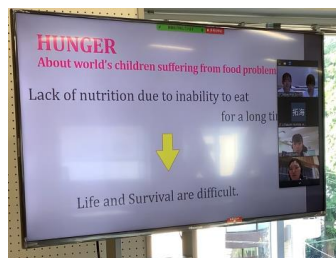
8月11日(火)12日(水)二日間にわたり、生徒国際イノベーションフォーラム 2020@online (ISIF2020) が開催され、世界各国からのべ約500名が参加しました。本校からは犬塚舞桜さん(2年)、漆崎唯さん(2年)が参加し、堂々と英語で実践報告をしました。このフォーラムに参加することが決まってから、犬塚さんと漆崎さんは昼食をALTのアン先生と一緒に英語でのコミュニケーションの練習をしたり、7月の県内での活動報告会にも英語で発表したりするなど、入念な準備を進めてきました。



今年は「学校のWell-being(よりよいあり方)」をテーマに、中高生を中心に、教師や研究者、大学生、教育行政、企業、NPOなどが平等に語り合いました。海外も含めた各学校の実践や教育活動、そこで感じる生徒や教師の「ホンネ」を持ちよりながら、新しい学校の「カタチ」を描き出していきました。

### 1日目：英語での実践報告／環境学習の実態交流

1日目、国内外からの参加者の顔がいっぱいに並んだ画面を前に、かなり緊張気味の二人でしたが任意に振り分けられた少人数のグループになってからは、積極的に英語で学校紹介と活動報告を行いました。



学校再開後の総合的な探究の時間で「SDGs」について学び、特に「貧困のない社会の実現」に興味をもった二人は、学校に通えない子供たちを救うための方策や食糧問題を少しでも解消するための方法を発表しました。



自分たちの発表を終えて、次はワークショップが始まりました。彼女たちは「環境」がテーマのグループで、学校の現状を分析し、未来の学校へのアプローチを考えました。福島大学生がファシリテーターとなり、福島県ふたば未来学園高等学校の生徒、福井大学附属義務教育学校の生徒、熊本市立北部中学校の野口哲先生と一緒に、環境教育の現状と今後について話し合いました。鯖江高校ではあまり環境教育は行われていないと報告しつつ、ごみ問題について話題提起しました。鯖江市と他地域のゴミの分別の違いからゴミ問題全般に話が広がり、海洋ごみやプラスチックごみについての議論も深めていきました。

### 2日目：今後の環境学習について考える

2日目、オープニングで1日目の交流の概要が英語で行われたあと、1日目のメンバーで今後の環境学習について具体的な方策を話し合いました。

漆崎さんたちは、王山古墳をあげながら環境保持にはふれあう機会を増やしていくべきではないかと提案しました。その発言をうけ環境保持に関する学習は「なぜそれを守るべきなのか」を考えていくことで、「地域